令和5年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 14	学校名	県立鹿島特別支援学校										学校長名	石上 智子						
教頭名	平 知己		教頭名	坂上 隆			教頭名	佐藤 政雄			事務長名	廣瀬 陽子								
教職員数	主幹教諭	1	教諭	101	養護教諭	2	栄養教諭	1	常勤講師	55	非常勤講師	7	実習助手	2	事務職員	3	技術職員等	14	計	186
児童・生徒数	部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	小学部	14	10	19	9	12	4	21	7	23	7	19	5	108	42	35				
	中学部	19	12	22	11	17	7							58	30	22				
	高等部	41	11	18	16	25	7							84	34	20				
計														250	106	77				

2 目指す学校像

- ◆元気に楽しく学べる学校
- ◆一人一人がよさを発揮できる学校
- ◆保護者、地域とともにある学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や状況を想定した防災訓練や引き渡し訓練等の実施と災害に備えた体制づくりに取り組んでいる。 ・安全点検と職員清掃により、児童生徒の安全確保と校内の整理・整頓、環境美化に努めている。 ・いじめ防止対策会議の開催と毎月のいじめ早期発見チェックリストを通して、いじめの未然防止、早期発見を図っている。 ・携帯電話・スマートフォンでSNSやメールを使用する際のルールやマナーについて、定期的な指導と外部講師による講義を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害や状況に対応できるような訓練内容の工夫と防災備品の点検と計画的な入れ換えや補充 ・事故や怪我の防止につながる安全点検の強化 ・いじめの定義・対処方法について職員間の共通理解と校内体制の見直し ・性的マイノリティや子どもの権利の観点を踏まえた校則の見直し ・長期欠席傾向にある児童生徒への学びの保障や組織的対応

	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの規程を保護者・運行会社・職員に周知し、安全な運を図っている。 ・学校安全委員会や学校保健委員会を開催し、児童生徒の健康・安全の維持に努めている。 ・医療的ケアに関する保護者説明会やケース会議を実施し、緊急時の対応や手技の確認を行い、共通理解を図っている。 ・給食委員会を開催し、安全でおいしい給食の実施に努めている。児童生徒の実態に応じた食形態と摂食指導の在り方について、研修を実施している。 ・地域のセンター的機能として教育機関への出向き相談や来校相談を行い、ニーズに応じた支援に取り組んでいる。 ・交流及び共同学習を実施し、相互理解を図っている。 ・学校説明会や体験学習の実施、ホームページでの情報発信により本校への理解推進に取り組んでいる。 ・地域とともにある学校づくりに向け、コミュニティ・スクールを導入している。 ・ボトムアップ研修やセルフチェック等により職員のコンプライアンス意識の醸成を図っている。 ・働き方改革として定時退勤日や最終施錠時刻の設定、ポータルサイトによる連絡、電話のメッセージ機能の導入、メールによる欠席連絡等に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス規程の徹底による安全な運行と置き去り防止、スクールバス駐車場の乗降時の安全確保 ・行事の安全な実施に向けた活動内容の十分な検討 ・医療的ケア者の校外学習時の個別マニュアルの作成 ・食物アレルギーやてんかん発作時の対応など研修を通じた周知徹底 ・給食体験について、本校の給食活動への理解促進を重視した取り組みにすため実施形態や対象学年の検討 ・センター的機能の更なる充実を図るため、担当する教員の育成と専門性向上のための研修の実施 ・相互理解につながる交流及び共同学習の内容の工夫 ・学校の魅力発信となるようなホームページの充実 ・学校経営方針や課題等を共有できるような学校運営協議会の運営 ・学校評価保護者アンケートの回収率アップの検討 ・当事者意識を高めるコンプライアンス研修の工夫 ・効率化を図るタイムマネジメントを意識した働き方の推進と職員の多忙感の軽減につながる取り組みの検討 ・児童生徒や教員の増加に伴うタブレット端末及び校務用パソコンの整備や入れ替え ・計画的な予算執行と施設設備やICT環境の整備
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用を工夫し、主体的・対話的で深学びのある授業づくりに努めている。 ・主に自立活動が中心となる教育課程において、セラピスト等の外部専門家を活用し、授業改善に努めている。 ・授業の中で、児童生徒の実態に応じたタブレット端末や電子黒板等の活用を進めている。 ・年間指導計画の見直しを通して、児童生徒の障害特性や発達段階等に応じ、育成を目指す資質・能力の3つの柱を踏まえた目標設定と指導内容を検討している。 ・各部の目指す児童生徒像と卒業までに身に付けたい力について整理を行っている。 ・卒業後の生活に向けた体験学習、職場体験、校内・現場実習やデュ 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・ICT活用の仕方や授業構想等の事例の蓄積、職員のスキルやニーズに応じたICT活用研修の実施 ・教科等の係を中心として、小学部から高等部まで系統性のある年間指導計画の作成 ・各部間の系統性を踏まえたキャリア教育の推進 ・児童生徒の自己有用感や自己肯定感、自己実現を促す体験活動の充実

	アルシステム型現場実習を行っている。 ・学級活動や児童・生徒会活動、学校行事をとおして、一人一人のよさを発揮したり、友達と協力したりする場の工夫に努めている。	・コロナ禍前に戻すのではなく、育成を目指す資質・能力を踏まえた学校行事や体験活動の精査
--	--	---

4 中期的目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒一人一人の学びを大切にし、よさを認め、伸ばす教育活動を推進する。 2 生涯を通じて活力ある生活を送るための基礎となる、豊かな心、健やかな体を育む教育の充実に努める。 3 保護者、地域とともにある学校づくりに努め、地域におけるセンター的機能を推進する。 4 働き方改革を推進し、教職員が働きがいのある学校づくりに努める。
--

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
○一人一の学びを大切にする指導の充実	①育成を目指す資質・能力を踏まえた系統性のある年間指導計画の見直し ②「わかる」「できた」が実感でき、深い学びにつながる授業実践 ③ICTの効果的活用と校内研修の実施 ④自立活動の指導の工夫 ⑤各部の目指す姿に応じた系統性のあるキャリア教育の実践
○安心安全な環境と豊かな心、健やかな体を育む教育	⑥安心安全な教育環境の徹底 ⑦自己有用感、自己肯定感、自己実現を促す体験活動の充実 ⑧多様な見方や考え方に触れる道徳教育の推進 ⑨文化的・体育的活動の充実
○地域とともにある学校づくりの推進	⑩センター的機能の強化 ⑪校内支援体制の充実 ⑫交流及び共同学習の充実 ⑬学校運営協議会を核としたPTAや地域、関係機関との連携・協働 ⑭ホームページや学校公開等による積極的な情報発信と地域への理解推進
◎重点項目・重点目標達成のための学校体制の推進	(a)あいさつ・言葉かけ・話し合いの重視 (b)専門性の向上 (c)働き方改革の推進（効率化を図るタイムマネジメント） (d)鹿特コミュニティ・スクールの推進